

高冷地における「あきたこまち」の湛水直播栽培のための苗立ち確保技術

福島県農業試験場 冷害試験地

平成14年度福島県農業試験場成績概要

分類コード 01-01-01750000

部門名 水稲—水稲—品種—水稲直播

担当者 小森秀雄・矢島 豊

I 新技術の解説

1 要旨

中山間・高冷地における直播栽培の適応品種拡大を目的として、「あきたこまち」の播種条件を明らかにした。

- (1) 浸種条件を10℃10日間、15℃7日間、20℃5日間で検討したところ、10℃10日間の浸種が催芽の揃いが良く、苗立ちが良好であった(図1)。
- (2) 10a乾籾5kgの播種において、平均苗立ち数が80本/㎡以上となるのは、5月10日の播種とカルパー加温処理を施した5月2日の播種である(図2)。
- (3) 5月2日以前の播種や、5月2日でもカルパー加温処理を行わない播種は、苗立ち数が50本/㎡以下となった年次があり、極端な苗立ち数の不足は雑草害が発生する。
- (4) 5月10日播種の3カ年平均の出穂期は8月14日である。(表1)。これより遅い時期の播種は、出穂期の遅延により品質の低下を招く懸念がある。
- (5) 収量は5月10日の播種が最も安定して多収であった。

2 期待される効果

「あきたこまち」の播種条件を明らかにしたことで、直播栽培の中山間・高冷地への導入拡大が期待できる。

3 適用範囲

適応地帯は会津山間地帯が標高550m以下、阿武隈山間地帯は標高500m以下とする。

4 普及上の留意点

播種量は10a乾籾5kgとし、十分な浸種を行う。

II 具体的データ等

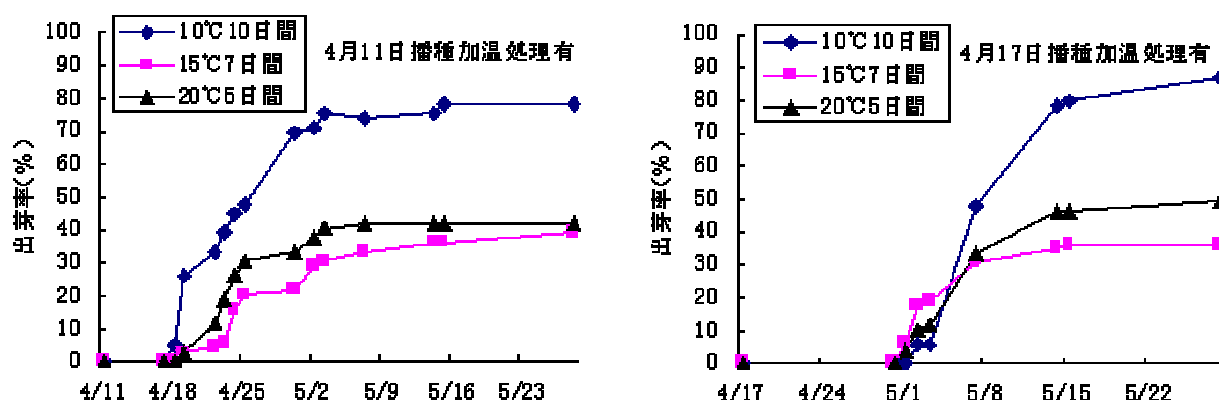


図1 コンテナ試験における浸種温度別の出芽経過(2002年)

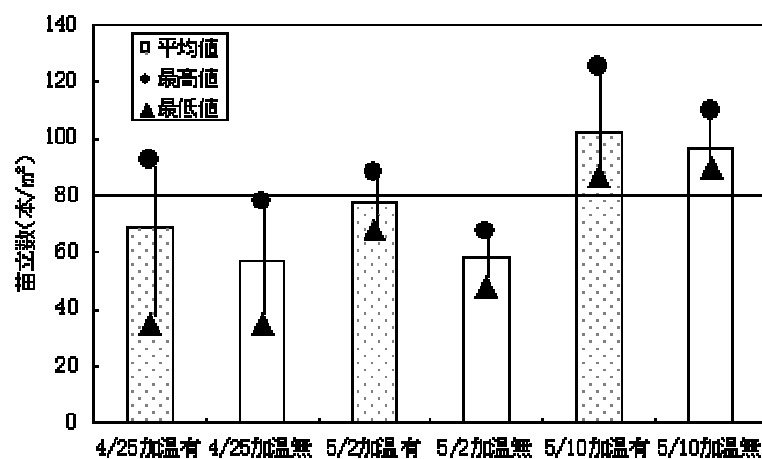


図2 湛水直播イネの播種期別のカルパー加温処理の有無と苗立数(2000年～2002年)

表1 湛水直播イネの播種期前進試験における苗立数および収量

(2000年～2002年の3年平均値)

播種期	カルパー 加温処理	播種後10日間の		m²当たり		出芽			収量 (kg/a)	標準対比 (%)	品質 (1～9)
		気温 (℃)	地温 (℃)	苗立数 (本/m²)	標準対比 (%)	始期 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)			
4/25播種	有	10.3	11.4	69	71	5/6	8/10	9/28	64.6	98	1.7
"	無	"	"	57	59	5/8	8/12	9/29	63.3	96	2.0
5/2播種	有	12.7	14.0	77	79	5/9	8/12	10/1	63.5	97	2.5
"	無	"	"	59	61	5/12	8/14	10/1	65.7	100	2.1
5/10播種	有	13.4	15.0	102	105	5/18	8/13	10/2	69.7	106	2.3
"	無	"	"	97	(100)	5/18	8/14	10/2	65.6	(100)	2.5

Ⅲ その他

1 執筆者

小森秀雄・佐藤 誠

2 主な参考文献・資料

なし